

内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会活動報告セミナー
「廃食油回収の促進とバイオ燃料活用の拡大による内航カーボンニュートラルの推進」

物流事業者へのバイオ燃料利用・普及に向けた取り組み

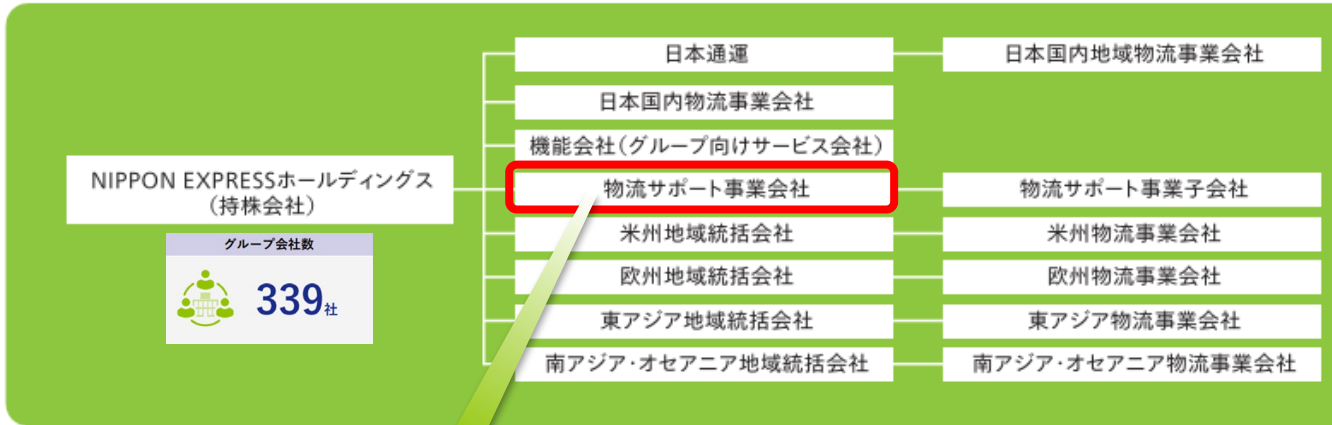
N X 商事株式会社 営業本部（エネルギーソリューション）

担当部長 栗山修平

グループ内におけるN X 商事のポジション

NXグループ 体制図

(2025年1月1日時点)



2022年1月4日、Nippon Expressホールディングス株式会社が設立。

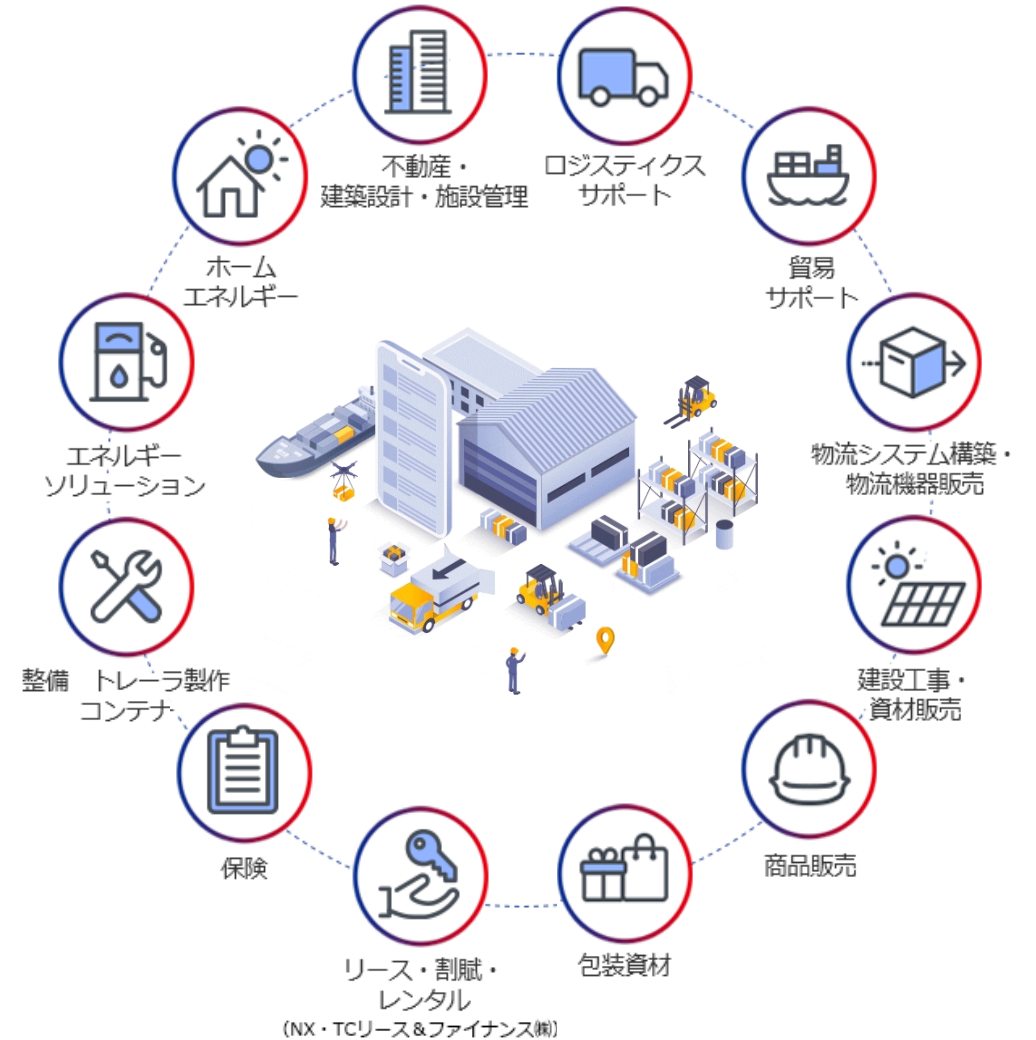
NEX NIPPON EXPRESS | NX 商事

AtoZ Logistics Solutions

世界 7ヶ国
193 拠点

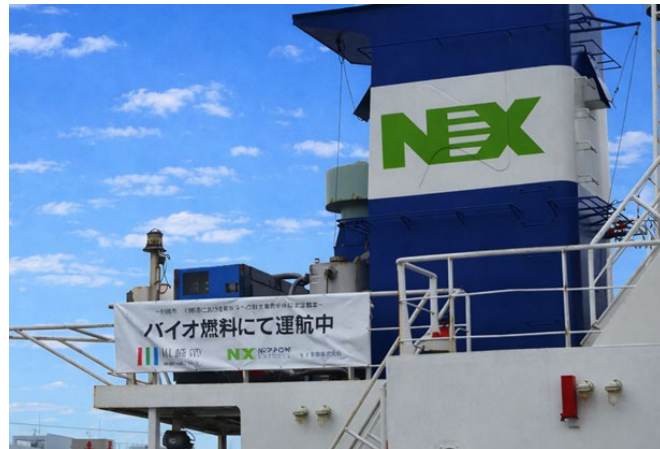


— 調達・生産・販売における各物流ステージにおけるワンストップサービスの提供します。



N X 商事 専用バンカータンカー「愛光丸」でのB20運航試験

エンジン・燃費・周辺機器への影響を定点検査を実施



NX商事
NX商事の強み
サービス・ソリューション
企業情報
採用情報

Global
拠点一覧
お問い合わせ
サイト内検索

2024年03月21日 お知らせ

自社バンカー船「愛光丸」へのバイオディーゼル供給を実施

当社は、本年2月、海上で船舶に燃料を供給する自社のバンカー供給船「愛光丸（総トン数499トン）」の自家用燃料として、バイオディーゼル燃料（※1）を用いた試験運航を開始いたしました。

当社バンカー船「愛光丸」（手前）と日本海運RORO船

今回使用するバイオディーゼル燃料は、従来の船舶燃料に廃食用油を原料としたFAME（※2）を20%以上混合したものであり、従来は廃棄されていた廃食用油を再利用する地球環境に優しい資源循環型の燃料です。

また、既存の船舶用内燃機関をそのまま活用できるドロップイン燃料である優位性に加え、従来と比較して20%程度のCO2排出量削減が可能となります。

当社では、「愛光丸」の運航範囲である東京湾において約3か月間の試験運行を行い、本取組みを通じて内燃機関や機器類への影響確認や定点性分析などを実施の後、お客様に船舶向けバイオディーゼル燃料を販売、供給できるスキームを構築していく予定です。

当社は、NXグループサステナビリティビジョンで掲げる“事業を通じて世界の人々のより良い暮らしと持続可能な社会の発展を支える”を体現すべく、陸上・海上・航空輸送の各モードに対応したバイオ燃料のサプライチェーン構築に取り組んでおり、低炭素燃料の普及・拡大に努め、循環型社会の実現に貢献してまいります。

（※1）バイオディーゼル燃料：生物由来油から作られるディーゼルエンジン用燃料。今回使用するものは、廃食用油などをエステル交換反応させて生成したバイオ成分（FAME）とA重油を混合したものです。

（※2）FAME：脂肪酸メチルエステル。脂肪酸あるいは脂肪酸とメタノールとのアルカリ触媒反応によって生産できる脂肪酸エステル的一种。

東京湾内におけるバイオ燃料物流スキーム（輸送・ブレンド・保管）

- ◆ バイオ燃料（FAME）は石油製品供給インフラと異なるため、独自のエネルギー物流を構築する必要がありました。
- ◆ 当社は、東京湾内において船舶向けバイオ燃料供給体制の構築を完了しました。
- ◆ 国産及び輸入品でのバイオ燃料（FAME）を重油に混合し、海運会社やマリコン各社への販売を開始しました。

国際輸送

国内輸送



生産拠点



国内輸送



海上輸送



水切り・通関



ドレージ



受入れタンク



給油船への積込み



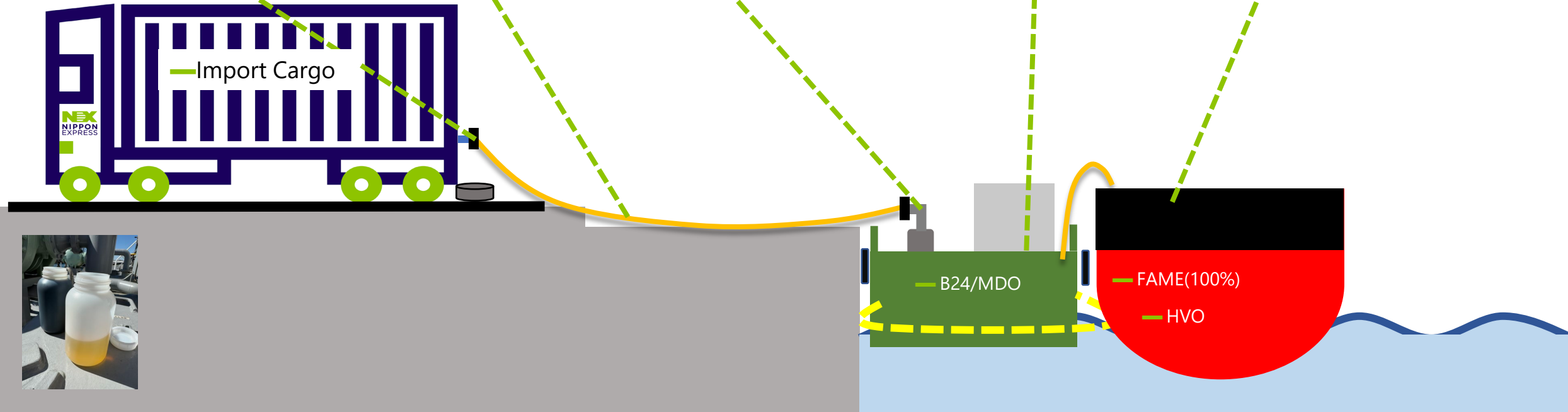
本船への納入



国内精製工場



フローティングバージ（危険物一般取扱所）の工程概要図



マリンコンストラクター各社への納入事例

NEX NIPPON EXPRESS | NX商事

NX商事の強み サービス・ソリューション ▾ 企業情報 ▾ 採用情報

2024年11月25日

お知らせ

五洋建設へ船舶用バイオ燃料の供給を開始

当社は、2024年11月21日、五洋建設株式会社（社長：清水啄三、以下「五洋建設」）へ、船舶用バイオ燃料の供給を開始いたしました。当社では、国内の港湾整備事業における大型作業船への本格的なバイオ燃料供給は初となります。



B24給油中のボコム12号

当社が供給したバイオ燃料は、廃食用油から製造したFAME※をA重油に24%混合したB24燃料となります。B24はエンジン換装などが不要なドロップイン燃料且つCO2の排出を24%削減することができる地球環境に優しい資源循環型の燃料です。

また、今回使用したFAMEはISCC※認証を得ており、国際的に認められた持続可能性基準に準拠している燃料となります。

多くのCO2を発生させる海上土木工事において、作業船の脱炭素化が喫緊の課題となるなか、五洋建設ではバイオ燃料の使用によるCO2の排出削減は非常に有効な手段であると捉え、東京湾の海洋土木工事におけるCO2排出削減の取り組みを推進するため、作業船「ボコム12号」（深層混合処理船）でバイオ燃料を利用し、機器類への影響等を検証したうえで今後も海上土木工事におけるCO2の排出削減を推進します。

両社は業界の垣根を越えてCO2排出削減に努め、カーボンニュートラルへの取り組みを推進してまいります。



川崎市との「脱炭素燃料供給に関する基本協定定書」締結

2025年04月24日

お知らせ

川崎市・兼松ペトロと「川崎港における船舶等への脱炭素燃料供給実証事業に関する基本協定書」を締結

当社は、2025年4月24日、川崎市（市長：福田 紀彦）並びに兼松ペトロ株式会社（社長：西山 勉、以下「兼松ペトロ」）と「川崎港におけるバイオ燃料の供給実証事業」を実施することに合意し、協定書を締結いたしました。



左：西山社長、中央：福田市長、右：青木社長



懇談の様子

本事業は当社、川崎市並びに、兼松ペトロの3者が協働で川崎港におけるバイオ燃料の船舶への供給実証事業を実施するものです。

当社は、物流企業グループのエネルギーサプライヤーとして、川崎港を利用する企業への船舶用バイオ燃料の供給促進により、環境負荷の低い物流支援体制の構築をすすめ、川崎港の脱炭素港湾の実現に向けた官民共同での取組を推進します。

尚、本実証事業では、港湾の脱炭素化に向けた代替燃料であるバイオ燃料の活用可能性や運用上の課題抽出を目的としております。

3者は本実証事業を通じて港湾エリアの脱炭素化・カーボンニュートラルへの取組を推進してまいります。

■川崎市について

神奈川県北東部に位置する人口約155万人の政令指定都市で、2024年に市制100周年を迎えました。

■兼松ペトロ株式会社について

総合エネルギー取扱会社として、石油製品、LPガス、潤滑剤の取扱いを通じて、資源とエネルギーの安定供給と効率的利用、並びにクリーンエネルギーの活用を進め、社会の低炭素化を推進しています。

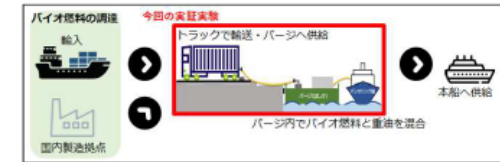

 令和7年4月24日
 報道発表資料
 川崎市（港湾局）

船舶の燃料転換で川崎港におけるCO₂排出量を削減！ バイオ燃料供給実証に向けて3者協定を締結しました

川崎市、NX商事株式会社（東京都港区）、兼松ペトロ株式会社（東京都千代田区）の3者は、川崎港における船舶へのバイオ燃料（脱炭素燃料）の供給実証事業を協働で実施することとなり、本日、協定を締結しました。

本実証実験では、川崎港のカーボンニュートラル化を目指す川崎市と、船舶燃料の脱炭素化に取り組むNX商事株式会社及び兼松ペトロ株式会社が協力して、川崎市内の港湾施設に設置した船舶への燃料供給用ステーションバージ（台船）に、国内や海外から調達したバイオ燃料（FAMEを予定）を供給。バージ内で重油と混合し、混合した燃料（B24）をバウリング船を介して本船に供給します。

バイオ燃料は、既存の設備をそのまま活用して導入することができるため、脱炭素化につなげやすいことが特長です。公共港湾施設を活用する、常設のバージを介した船舶用バイオ燃料供給の取組は国内でもめずらしい事例です。港湾の脱炭素化に向け、船舶の代替燃料として注目されているバイオ燃料の供給体制を構築し、CO₂削減効果の検証やニーズ把握、運用上の課題抽出などを行います。



【実証事業イメージ】

1 協定名「川崎港における船舶等への脱炭素燃料供給実証事業に関する基本協定」

2 締結日 令和7年4月24日（木）

3 連携協力事項

- (1) 川崎港における脱炭素燃料の普及・利用促進に向けた効果検証及び課題整理並びに課題解決手法の検討
- (2) 川崎市内で排出される廃食油等の脱炭素燃料原料への活用
- (3) 自然災害発生時等の緊急時における脱炭素燃料の非常用燃料としての活用

3 締結式出席者

- (1) 川崎市市長 福田 紀彦
- (2) NX商事株式会社 青木 進（あおき すずむ）代表取締役社長
- (3) 兼松ペトロ株式会社 西山 勉（にしやま つとむ）代表取締役社長

N X 商事 バイオ燃料供給基地 Marine Biofuel Station (川崎市)



- 6月11日 竣工
- 6月19日 消防完成検査
- 7月上旬 横浜よりタンク移設

危険物一般取扱所

種別	第四類
品名	第三石油類
最大数量	100,000L
指定数量の倍数	50倍



N X 商事 バイオ燃料供給基地 Marine Biofuel Station (川崎市)



N X 商事 バイオ燃料供給基地 Marine Biofuel Station (川崎市)



東京都「脱炭素燃料活用における事業化促進支援事業」への参画

2025年09月04日

お知らせ

「東京都脱炭素燃料活用における事業化促進支援事業」の支援対象事業者を選定されました

～バイオ燃料(FAME※)活用により東京都の脱炭素化を推進～

当社は、東京都（以下「都」という。）及び公益財団法人東京都環境公社（以下「公社」という。）が連携し、環境負荷の少ないバイオ燃料の車両・船舶等での商用化・実装化に向けた事業への取組みを支援する「脱炭素燃料活用における事業化促進支援事業」の支援対象事業者を選定されました。

本取組においては、当社独自の船舶向けバイオ燃料供給スキームを活用し、東京港を発着する船舶に対して、A重油とバイオ燃料（FAME※）を混合した燃料（B24、以下「B24」）の供給を計画しております。本事業は、都の支援を受けて実施するものであり、構成会社「マルエーフェリー株式会社（社長：有村和晃）、日本塩回送株式会社（社長：網本浩一）、株式会社藤井石油（社長：藤井正敏）、伊豆七島海運株式会社（社長：山本忠和）、コスモ石油マーケティング株式会社（社長：高山直樹）、NX海運株式会社（社長：森下武）」に対し、B24の供給を予定しております。

当社は、NXグループサステナビリティビジョン「事業を通じて世界の人々のより良い暮らしと持続可能な社会の発展を支える」のもと、陸上・海上・航空輸送の各モードに対応したバイオ燃料サプライチェーンの構築に取り組んでおります。

バイオ燃料の導入を通じて、都が掲げる「ゼロエミッション東京」の実現ならびに持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

※FAME（Fatty Acid Methyl Ester）：脂肪酸メチルエステル。バイオディーゼル燃料の主成分。

東京都プレスリリース：<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2025/09/2025090403> →

東京都環境公社プレスリリース：https://www.tokyo-co2down.jp/wp-content/uploads/2025/09/datutanso_press_20250904.pdf →

お問い合わせ

営業本部（エネルギーソリューション）

TEL：03-6734-8811

Email: nxs-es.ev@nipponexpress.com



令和7年9月4日
産業労働局
公益財団法人東京都環境公社

新たな分野でバイオ燃料を活用して 脱炭素化に取り組む事業者を選定しました！

東京都では、「ゼロエミッション東京戦略 Beyond カーボンハーフ」を策定し、環境負荷の少ないバイオ燃料の商用化・実用化を推進することとしています。

これまで、物流トラック、バスなどでバイオ燃料を活用した事業化に向けた取組を支援してきました。今年度は新たに、航空エンジン整備・鉄道・船舶の分野での支援を選定しましたのでお知らせします。

支援事業の概要

◆ 募集分野：バイオ燃料（新たな分野） ※物流トラック、バス、建設機械、航空機及び空港特殊車両以外の分野

①「バイオ燃料使用促進のための地域連携／エンジン出荷運転のSAF導入」

- 事業実施者：株式会社IHI
- 事業概要：地域から集めた廃食用油などを原材料としたSAFを航空エンジン整備事業に活用し、自社のみならず地域のCO2排出量削減に寄与するとともに、地域などへの広報活動も実施

②「バイオ燃料活用による鉄道分野での脱炭素実装化事業」

- 事業実施者
 - ・代表者：伊藤忠エネクス株式会社
 - ・構成員：株式会社交通建設、株式会社JR東日本商事、東鉄工業株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、ユニオン建設株式会社
- 事業概要：リニューアブルディーゼルを鉄道用の保守用車両ならびに工用重機械車両で使用することで、都内の脱炭素化を推進し、持続的な社会の実現と、都民の移動の安全性を維持することを両立

③「東京港におけるShip to Shipを用いた船舶向けバイオ燃料供給事業」

- 事業実施者
 - ・代表者：NX商事株式会社
 - ・構成員：伊豆七島海運株式会社、NX海運株式会社、コスモ石油マーケティング株式会社、日本塩回送株式会社、株式会社藤井石油、マルエーフェリー株式会社
- 事業概要：東京港を発着する船舶にバイオ燃料を供給することで、船舶分野の脱炭素化を推進するとともに、広報活動を並行することで持続的な船舶分野におけるバイオ燃料の普及に取り組む

様々なプロモーション活動



早稲田大学公開講座での講演



全国バイオディーゼル利用
推進協議会講演会



リム情報開発主催エネルギーアワード
パネルディスカッション登壇



川崎市カーボンニュートラル
コンビナート、ポート協議会
での事例紹介



- 《主な設備・取組》
- ・ノンフロン機器導入
 - ・遮熱フィルムの貼付
 - ・ペットボトル回収機導入
 - ・廃食油の船舶燃料活用
 - ・太陽光パネル&蓄電システム設置

山崎製パン様、展示会での廃食油
循環に関する紹介

様々なプロモーション活動

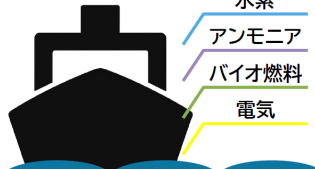


川崎港 船舶燃料脱炭素セミナー
船舶の脱炭素ロードマップ
次世代燃料の最新動向と活用方法

2026 10:00
 2/12(木) 12:00

会場:川崎市役所 101会議室
 オンライン:Teams

国際的な環境規制が加速する中、船舶燃料の選択は経営上の大きな課題となっています。
 本セミナーでは、今年度川崎市が行った調査結果に基づき、次世代燃料活用に向けた現状やコスト、技術的ハードルを整理。その上で、次世代燃料の利用における具体的な課題と今後の展望を説明します。



- 内容**
- **港内船舶燃料の低炭素化に関する調査結果報告**
 川崎市が令和7年度に行った港内船舶燃料の低炭素化に関する調査結果を報告いたします。
 最新事例や次世代燃料の普及ロードマップ等を説明します。
 - **バイオ燃料導入のススメ**
 既存船舶を改造することなく利用できるバイオ燃料の導入メリットや課題について、全国バイオディーゼル燃料利用推進協議会様から解説していただきます。
 - **次世代燃料活用の現在地**
 次世代燃料に関する先進的なプレイヤーから利用してみた感想や課題をお話していただきます。

申込方法
 申込フォームからお申し込みください。【申込期限:2/9(月)】
<https://events.teams.microsoft.com/event/035cc944-a14e-4cb1-95d8-b767924dca6e3?context=ch&chid=1166&chid=1166>



お問合せ
 川崎市港湾局港湾経営部経営企画課
 Tel. 044-200-3062 Email. 58keiki@city.kawasaki.jp

川崎港船舶燃料脱炭素セミナー
 「船舶の脱炭素ロードマップ」
 次世代燃料の最新動向と活用方法 登壇

鉄道・運輸機構
JR TT

報道発表資料
2026 (令和8) 年 2月 4日

同時発表
 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構
 日本内航海運組合総連合会
 一般社団法人日本旅客船協会
 一般社団法人日本船用工業会
 全国油船事業協同組合連合会

**内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会
 活動報告セミナーを開催します**

「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会」(事務局:鉄道・運輸機構)では、3月17日に、これまで協議会メンバーが実施してきた取組みや業界の状況に関するセミナーを開催します。

「内航船の廃食油回収・バイオ燃料活用に関する連絡協議会」(以下「連絡協議会」という)では、内航海運分野において、廃食油回収の促進とバイオ燃料活用の拡大によるカーボンニュートラルの推進を図ることを目的に活動をしてきました。
 本セミナーでは、これまで協議会メンバーが実施してきた取組みや業界の状況をご紹介します。
 開催概要は下記のとおりです。事前登録のうえ、是非、ご参加ください。

記

1. 開催日時及び会場

日 時	会 場	開催形式	申込締切日
3月17日(火) 13:30~17:00	海運ビル2階大ホール	ハイブリッド開催 (ウェビナー併用)	3月13日 (金)

2. 参加申込み方法
 本セミナーへの参加は事前登録制です。
 申込締切日までに、以下のURLまたはQRコードへのアクセスにより参加申込みください。
 取材のために参加される報道関係の皆様も、同様の方法にて申込みください。
 講演資料及びオンライン視聴用のURLは、開催日が近くなりましたら、ご登録いただいたご連絡先(E-mail)へお送りします。

URL: <https://haisyokuyu2026.com/>

QRコード:

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

鉄道・運輸機構 (JR TT)
 「内航船の廃食油回収・バイオ燃料利用に関する連絡協議会活動報告
 セミナー」 登壇

船舶向けバイオ燃料で拓く海の脱炭素化 ～YouTubeで公開中～



施策の動画は
YouTubeで公開中!



N X 商事 バイオ燃料供給基地 ～拡大する需要に対する施策～

- ✓ 川崎市港湾局より海域占有の拡大許可を取得。従来型の1号台船（B24・A重油）に加え、2号台船を増設。
- ✓ これによりFAME、HVO、SVO等をそのまま貯蔵。
- ✓ 混合率を自由に変えることができることに加え、C重油（適合油）への混合も可能となります。

2025年7月



2026年2月





NEX NIPPON
EXPRESS

We Find the Way